

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第29号—



石冠が出土したようす

装飾された石冠が出土！～一王寺遺跡～

史跡是川石器時代遺跡は、一王寺遺跡・中居遺跡・堀田遺跡の3つの遺跡の総称です。このうち一王寺遺跡は、北日本における縄文時代前・中期を代表する円筒式土器の標式遺跡の一つです。八戸市教育委員会では遺跡の中心部を対象に令和元年度から4年度にかけて内容確認調査を実施しており、今回は5年目の調査になります。

今回の調査で注目される遺物として、縄文時代中期の石冠があります。石冠は、遺跡南側の寺ノ沢へ向かう斜面の調査区から出土しました。

石冠とは、上部が盛り上がった「冠」状の形をした石製品です。全体が磨かれており、装飾が施されたものが多いため、生活に使う実用品ではなく、まつりで使う道具であったと考えられています。 (次頁へ続く)



石冠 (長11.2cm、幅6.2cm)
前面と裏面に3つの穿孔、両側面に1条の刻線が施されています。上部が壊れた状態で出土しました。

これまでの調査により、本遺跡の南側には多量の遺物や土砂、焼土、炭粒などを含む人為的な堆積層（盛土遺構）が広がっていることがわかっていました。今回の調査では、この盛土遺構がどのように始まり、どのように積み重なっていったのかを明らかにするため、その一部を遺物が出なくなるまで掘り下げました。その結果、1～2mにおよぶ縄文時代前期終わりごろから中期後半の盛土遺構の下から、さらに古い前期中ごろの^{たてあな}堅穴建物跡がみつかりました。盛土遺構は、使われなくなった堅穴建物のくぼ地を埋めるように、遺物を含む土が捨てられて積み重なったものと考えられます。その後、およそ1,000年にわたってこうした営みが続き、最終的に厚さ1～2mにもなる盛土遺構ができあがったことがわかりました。

また、盛土遺構の最下層（縄文時代前期終わ



南から調査区全体をドローンにより撮影した写真
2×10mを基調としたトレンチを17箇所調査しました。



盛土遺構の最下層から出土した人骨（下顎）
下顎には奥歯が2本残っていました。

りから中期初めごろ）から歯が残った状態の人の^{かがく}下顎の骨が出土しました。この時期の人骨は、貝塚など限られた遺跡からしかみつかっていないため、とても貴重な発見です。調査では、お墓の跡とみられる掘り込みは確認されていないため、ほかの遺物と一緒に捨てられたか、あるいは別の場所から流れ込んだ可能性があります。

寺ノ沢の斜面を見下ろす台地上では、縄文時代中期後半の堅穴建物跡が多数みついています。今回の調査から、これらの建物跡は、より古い時期の堅穴建物跡やフラスコ状土坑（木の^{どこう}実などの貯蔵穴）を壊してつくられたものであることがわかりました。

令和元年度から続けてきた本遺跡の内容確認調査は、今回で一区切りとなります。今後は令和元～4・7年度の成果をまとめ、発掘調査報告書を刊行する予定です。（横山 寛剛）



寺ノ沢に向かう斜面地から出土した多量の土器
足の踏み場もないほどの多量の土器が出土しました。調査を進めると、この土器は使われなくなった堅穴建物のくぼ地に廃棄されたものであることがわかりました。



7年間の調査が終了！～松ヶ崎遺跡～

松ヶ崎遺跡は、新井田川とその支流の松館川に挟まれた、標高22～45mの台地に立地する、市内最大規模の縄文時代の集落跡です。

第11地点では、令和元年度から7年度までの7年にわたり、延べ8,544㎡の発掘調査を行いました。ここでは、7年間の調査で得られた成果の一部をご紹介します。

①縄文時代中期の遺構を多数発見！

7年間の調査では、縄文時代中期を中心に、非常に多くの遺構がみつかりました。特に調査区北西側では、縄文時代中期中頃から後半ごろ(約4,500～4,000年前)の^{たてあな}堅穴建物跡がたくさんみつかり、堅穴建物などがいくつも重なったり、建物の拡張を行った痕跡のあるものも複数みつかり、同じ場所に繰り返し建物をつくったことが窺えます。

また、堅穴建物跡などの遺構は調査区の北西側に集中することから、大規模な集落が北西から西側に広がっていると考えられます。

②縄文時代中期の盛土遺構を検出！

調査区西側で、土器などの遺物や土砂が大量に廃棄される、^{もりどいこう}盛土遺構がみつかりました。南北約40m、東西約30m、厚さ最大1.2mの規模で、マウンド状に盛り上がっています。

出土した遺物から、盛土遺構は縄文時代中期中頃から後半ごろにつくられたと考えられます。土器や石器などのほかに、^{どぐう}土偶や^{せきぼう}石棒などのかけらもみつかりました。

調査によって、盛土遺構ができる過程も明らかになりました。盛土遺構を掘り下げて行くと、その下から縄文時代中期中頃の堅穴建物跡がみつかりました。堅穴建物が使われなくなった後のくぼ地が土器などが捨てる「捨て場」として利用され、少しずつその範囲が広がり、マウンド状に盛り上がる盛土遺構ができたと考えられます。(宇庭 瑞穂)



令和6年度調査区 全景(北から)
令和6・7年度調査区(約2,500㎡)で、第11地点全体の7割以上の堅穴建物跡や土坑を検出しました。元の地面が見えないほど、建物が重なっている所もありました。



令和7年度調査区 全景(西から)
複数の堅穴建物が重なっています(白線が建物の範囲)。写っている人と比べると、堅穴建物の大きさがわかります。柱穴や周溝の配置から、拡張した可能性があるものが何棟もみつかりました。



盛土遺構 遺物出土状況(東から)
遺物とともに、焼けた土や炭の混じった土が捨てられています。遺物を全て取り上げると、この下から堅穴建物跡がみつかりました。堅穴建物が使われなくなった後、その窪地を「捨て場」として利用したと考えられます。

史跡是川石器時代遺跡の整備 — 整備工事 —

八戸市では、是川石器時代遺跡を生涯学習や観光の拠点、憩いの場として活用していく「是川縄文の里」の整備を進めています。令和元年度から第1期整備として、中居遺跡を対象に史跡内の建物撤去工事を進めてきました。

令和7年度は、中居遺跡南側の地形造成工事と地下水位を観測するための井戸を設置しました。中居遺跡を流れる沢には、漆器や木製品など、たくさんの植物質遺物がみつかった送り場（捨て場）がつくられていました。整備後も沢の地下水で守られている遺物を保護するため、地下水位の観測を継続していきます。

今後は、令和11年度の工事完了、令和12年度の全面オープンをめざして工事を進めます。今年も、イベント時に見学ツアーで限定公開しますので、機会がありましたらぜひご参加ください。（船場 昌子）



整備後の沢のようす

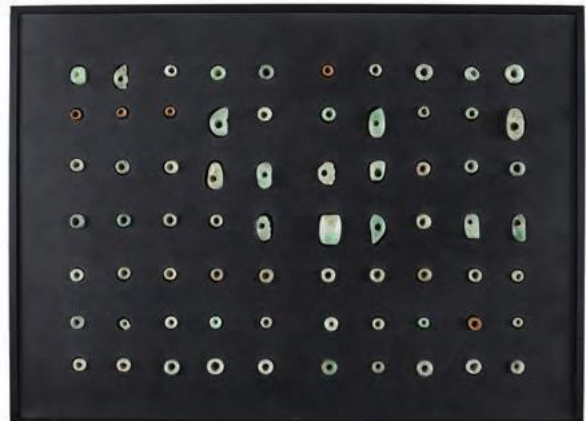
令和7年度是川遺跡出土品保存修理事業

八戸市では、貴重な文化財を良い状態で保存し活用するため、国庫補助金の交付を受けて、重要文化財「青森県是川遺跡出土品」の保存修理事業を進めています。また、令和7年度からは重要文化財「青森県風張1遺跡出土品」の保存修理を開始しました。保存修理を実施することにより、資料の劣化を抑制するとともに、本来の状態を復元し展示などで公開活用することができるようになります。

令和7年度は、是川遺跡出土漆製品（樹皮製容器）1点・繊維製品1点、風張1遺跡出土の深鉢形土器1点・玉70点の保存修理と保存台作成を実施しました。修理では、細部の観察やX線撮影により状態を確認し、クリーニングを施した後に、それぞれの材質や状態に応じた修理が行われます。今後も貴重な文化財を未来に伝え残していくために、保存修理を進めていきます。（横山 寛剛）



是川遺跡出土 樹皮製容器残欠を
作成した保存台に収めた状態



保存修理した風張1遺跡出土の玉を
作成した保存台に収めた状態

令和5・6年度発掘調査成果展「掘り day はちのへ」開催！

開催期間：令和7年4月26日（土）～6月22日（日）

是川縄文館では、毎年20件以上の遺跡調査を行っています。本展は、最新の発掘調査成果をはじめ、発掘資料から八戸の歴史や文化を紹介することを目的とした企画展です。

「令和5・6年度発掘成果展」では、市内に491箇所ある遺跡の紹介や、発掘調査について解説し、令和5・6年度に発掘調査を実施した遺跡とその出土遺物を紹介しました。

特集展示「はちのへの古代集落」は、3世紀中頃にはじまった古墳時代から12世紀後半の平安時代の終わり頃の「古代」にスポットを当てました。八戸市内に数多く残る古代の集落遺跡を紹介するとともに、出土した遺物から、古代の人びとの食べ物や道具について身近に感じていただく内容としました。

また、併催イベントとして、企画展ギャラリートークのほか、屋内での擬似発掘体験、バックヤードツアーを開催しました。当日は市内外から多くの方にご参加いただき、発掘調査や考古学の仕事について、より深く身近に知っていただく機会となりました。（山田 貴博）



会場のようす



古代に使われた土師器



市内の遺跡から出土した須恵器甕

おいしいだけじゃない貝の魅力！特別展「貝へのあこがれ」開催！

開催期間：令和7年7月12日（土）～9月7日（日）

縄文時代、貝は「食べ物」として以外にも、さまざまな道具や装身具の素材として利用されていました。特別展では、千葉県と宮城県の遺跡を中心に、貝製品や貝に関連した出土品212点を展示し、縄文時代の貝利用や、貝をめぐる広域なネットワークについて紹介しました。

展示では、①縄文人と貝のかかわり、②貝の道具、③貝の装身具、④貝へのあこがれ、⑤縄文の海・現代の海の5つのテーマで構成しました。会場では、貝刃の使い方を解説する映像やオオツタノハの捕獲映像のほか、貝のアクセサリーや貝殻のハンズオン展示を行い、縄文時代の貝利用についてわかりやすく伝える内容としました。

会期中には、海岸での貝拾いや、貝輪づくり体験、おさかな学習会などのイベントを開催し、身近だけど意外と知らない海や貝について関心を深めていただく機会となりました。（澁谷 侑奈）



会場のようす



貝形土製品とモデルになった貝



貝輪づくりのようす



これが器の最先端！？秋季企画展「その土器は三角形▼^{せんてい}尖底土器の世界」開催！

開催期間：令和7年10月4日(土)～11月24日(月・振休)

縄文時代早期を中心に、数千年もの間煮炊きの道具として作られた尖底土器。そのままでは自立しない不安定な形の土器はなぜつくられ続けたのでしょうか。八戸地域の遺跡の出土品を中心に126点を展示し、人びとの暮らしから尖底土器の成り立ちと展開を探りました。

展示では、①その土器は三角形、②尖底土器のうつりかわり、③尖底土器を調べる、④三角形の容器、といった器の底の形に注目したテーマで構成し、青森県内の尖底土器のうつりかわりや、尖底土器の製作・使用方法を紹介しました。

会期最終日には、縄文時代の暮らしを実践している人気 YouTuber「週末縄文人」の縄さんとのトークイベントを開催し、謎深い尖底土器の魅力や八戸市内の遺跡の重要性を、参加者の方と共有するきっかけ作りに努めました。
(落合 美怜)



会場の様子



火にかけられた痕のある尖底土器



土器の容量を比べる体験コーナー

令和7年度八戸市遺跡調査報告会を開催しました

令和7年11月8日(土)に、八戸市での遺跡の発掘調査の成果を発表する遺跡調査報告会を開催し、市内外から約40名にご参加いただきました。

遺跡報告会では、史跡是川石器時代遺跡の一部である一王寺遺跡^{いちおうじ}や、縄文時代の松ヶ崎遺跡^{まつがさき}、古代から中世の複合遺跡である八幡遺跡^{やわた}の、3遺跡の発掘調査成果について報告しました。

また特別報告として、小田桐孔誌氏(おいらせ町教育委員会)から、おいらせ町新庁舎・新病院建設予定地における、奈良～平安時代の集落跡である中野平遺跡^{なかのたい}の発掘調査成果についてご報告いただきました。

遺物展示会場では、中野平遺跡の土師器や、一王寺遺跡・松ヶ崎遺跡の縄文土器や石器、八幡遺跡の土師器などを展示しました。

過去の報告会資料は、当館ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。(宇庭 瑞穂)



会場の様子
(上段：遺物展示会場 下段：報告会場)

令和7年度 発掘調査一覧

	遺跡名	調査内容	調査原因	調査期間	調査面積 (m ²)	種別/主な時代
市内遺跡発掘調査等事業	沢目遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.4.8	12	散布地/縄文
	盲堤沢(2)遺跡①	試掘調査	蓄電池設置	R7.4.10	10	散布地/縄文
	八幡遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.4.25	12	集落跡・社寺跡/縄文・弥生・飛鳥・奈良・平安・中世・近世
	屋巻沢遺跡①	試掘調査	送電線建替工事	R7.4.25	16.25	散布地/縄文
	直渡(1)遺跡①	試掘調査	太陽光発電所設置	R7.5.22・23	160	散布地/縄文
	寺ノ上遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.5.26・27	58	散布地/縄文
	市子林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.5.28	25	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	稲荷後(1)遺跡①	試掘調査	太陽光発電所設置	R7.5.28～6.3	700	散布地/縄文・奈良・平安
	法霊林遺跡①/第9地点	試掘調査/本発掘調査	個人住宅建築	R7.6.3/R7.6.10～13	30/22.2	集落跡/縄文・奈良・平安
	八幡遺跡②/第8地点	試掘調査/本発掘調査	個人住宅建築	R7.6.17・18/R7.7.7～8.18	19/140	集落跡・社寺跡/縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
	熊野堂遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.6.18	13.5	集落跡/弥生・奈良・平安
	市子林遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R7.6.19	9	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	下毛合清水遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.6.23	21	散布地/縄文・平安
	直渡(2)遺跡	試掘調査	太陽光発電所設置	R7.7.1・2	12	散布地/平安
	沢目遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R7.7.2	12	散布地/縄文(早)
	石橋遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.7.8	5	集落跡/縄文・平安・近世
	新井田古館遺跡①/第37地点	試掘調査/本発掘調査	個人住宅建築	R7.7.8～10/R7.8.19～10.3	11/120	集落跡・城館跡/縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
	館平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.8.5	11	集落跡・城館跡/縄文・奈良・平安・中世・近世
	山内遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.9.10	13	散布地/縄文・平安
	細越遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.9.11・12	13	散布地/奈良・平安
	山内遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R7.10.8	1.5	散布地/縄文・平安
	熊野堂遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R7.10.15	1	集落跡/弥生・奈良・平安
	新井田古館遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R7.10.15	8	集落跡・城館跡/縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
	市子林遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	R7.10.30	4	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
	山内遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	R7.11.11	9	散布地/縄文・平安
	法霊林遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	R8.3.12	9	集落跡/縄文・奈良・平安
	新井田古館遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	R8.3.17	8	集落跡・城館跡/縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
	熊野堂遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	R8.3.18	8	集落跡/弥生・奈良・平安
	酒美平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R8.3.19	19	集落跡/縄文・飛鳥・奈良・近世
	松ヶ崎遺跡第11地点	本発掘調査	長芋作付け	R7.4.7～6.7	200	集落跡・貝塚/縄文・奈良・平安
熊野堂遺跡第11地点	本発掘調査	個人住宅建築	R7.4.7～25	40	集落跡/縄文・奈良・平安	
田面木遺跡第63地点	本発掘調査	長芋作付け	R7.6.2～18	700	集落跡/縄文・奈良・平安	
一王寺遺跡	史跡内容確認調査		R7.7.1～11.9	320	史跡・集落跡/縄文・弥生・奈良・平安・近世	
事業託	八戸城跡第54地点	本発掘調査	道路改良工事	R7.11.10~12	98	城館跡/縄文・弥生・古墳・中世・近世・近代

《調査事務局》(令和7年度)

八戸市教育委員会
 教育長 齋藤 信哉
 教育部長 三浦 順哉
 教育部次長兼教育総務課長

松橋 広美
 是川縄文館長 中村 行宏
 副館長 間 砂織
 《埋蔵文化財グループ》

副参事(埋蔵文化財GL)
 杉山 陽亮
 主査兼学芸員 横山 寛剛

主事兼学芸員 上ノ山 拓己
 主事兼学芸員 宇庭 瑞穂
 主事兼学芸員 山田 貴博
 主事兼学芸員 吉田 仁香

事務員 川井 勉
 《縄文の里整備推進グループ》
 副参事(縄文の里整備推進GL)

小久保 拓也
 主 幹 石塚 昌範
 主 幹 船場 昌子

主事兼学芸員 落合 美怜
 主事兼学芸員 佐藤 ちひろ
 主事兼学芸員 菊地 智慧

主 事 関根 柔和
 主事兼学芸員 澁谷 侑奈
 事務員 栗谷川 恵美
 事務員 安藤 節子

事務員 石橋 由美
 《令和7年度刊行》
 八戸市埋蔵文化財調査報告書
 第189集
 市内遺跡発掘調査報告書51
 第190集 松ヶ崎遺跡第11地点I
 第191集 一王寺遺跡概報



掘りday はちのへ 第29号

発行年月日 令和8年6月10日
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館
 〒031-0023
 青森県八戸市大字是川字横山1
 TEL 0178(38)9511
 E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp
<https://www.korekawa-jomon.jp>
 (は川縄文館ホームページ)
 印刷 大東印刷株式会社
 〒039-1103
 青森県八戸市長苗代一丁目1-3
 TEL 0178(28)2348
 印刷部数:1,000部 印刷経費:一部あたり94.6円

